
F D 活動報告書

(2015 年度)

鹿児島女子短期大学



— 目 次 —

1. 学生による授業評価 … 1
2. 授業公開 … 9
3. F D 研修会 … 14
4. 外部 F D 研修会参加 … 23

◆FD活動アナウンス (FD委員会)

平成 27 年 10 月教授会資料

教員各位

FD委員長 池 田

お 知 ら せ

平成 27 年度後期におけるFD活動は、以下のとおりとなります。ご協力をよろしく
お願いいたします。

記

- 1. FD研修会 10月19日(月) 17:00～(南304)
- 2. 授業公開週間 11月9日(月)～11月20日(金)
- 3. FD研修会(報告) 平成28年3月25日(金)(予定)

以上

1 学生による授業評価

<授業評価アンケート実施内容>

(単位:名)

年度	学期	専任 教員数	実施教員数 (専任)	非常勤 教員数	実施教員数 (非常勤)	授業改善書 提出教員数 (専任)	授業改善書 提出教員数 (非常勤)
平成27年度	前期	48	48 (100%)	39	20 (51.3%)	48 (100%)	13 (65.0%)
	後期	48	48 (100%)	54	25 (46.3%)	48 (100%)	20 (80.0%)

◆授業評価依頼文書① (例示:平成27年度後期:授業アンケート依頼)

「授業についてのアンケート調査」実施要領 (平成27年度後期)

IR委員会

1. アンケート実施期間

下記の期間に「授業についてのアンケート調査」を実施してください。

平成28年1月6日(火)～1月26日(月)

2. アンケート実施予定票の提出

アンケート科目は、後期開講科目のうちの1科目(全授業)です。実技・演習科目も対象科目としていただいて結構です。

アンケート実施予定日の前日までに、下欄の予定票に記入し、切り取ってIR委員会のレターケースに提出してください。(アンケート実施予定票はサイボウズからもダウンロードできます。)

3. アンケート実施手順

- ①授業前に、アンケート用紙(「授業についてのアンケート調査」)の入った封筒を事務室で受け取ってください。(封筒に科目コードが書かれています。)
- ②アンケート用紙を学生に配付後、黒板に科目コードと自由設定項目20を書いてください(追加質問がない場合は不要です。)
- ③15分程度の時間を回答に充ててください。
- ④学生の代表に、アンケート用紙の回収にあたらせてください。重ねる順番は自由ですが、用紙の向きが合っていることを確認させてください。
- ⑤学生の代表に、所定の封筒に回収したアンケート用紙を入れさせてください。
- ⑥授業後、その封筒と余りのアンケート用紙を、出勤簿付近の所定の箱に入れてください。

4. 授業改善報告書

集計結果がまとまり次第、先生方にデータをお渡しします。それに基づいて「授業改善に向けて」(授業改善報告書)をご提出いただきますので、よろしくお願いいたします。

切り取り線

平成27年度後期

アンケート実施予定票

氏名 _____

【実施科目】 _____

【実施授業時間】(授業が複数ある場合はそれぞれ書いてください。)

受講者数

J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ())
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ())
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ())
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ())

平成28年2月

教員各位

FD委員長 池田

早春の息吹が感じられるようになってまいりました。

後期試験も終わり、先生方には年度末へ向けてご多忙の毎日が続いていることと拝察します。

さて、1月に実施した授業アンケートの個人別結果の仕分けが終わりましたので返戻いたします。これまでと同様、授業改善に向けた報告書用紙も同封してあります。改善報告書はすぐにご提出いただくのではなく、3月25日(金)10:00より開催される、FD研修会でのワークショップを踏まえご提出いただきますようお願いいたします(研修会にどうしても出席できない先生は、すぐのご提出でも構いません。その場所は、池田ポストをお願いします)。

提出期限は4月11日(厳守)とさせていただきます(提出先：返戻用の提出ボックスを用意(3月25日10時以降、出勤簿付近に設置します))。

なお、これからの主なFD活動スケジュールは下記のとおりです。

1. 第2回FD研修会 3月25日(金)10:00～

同封資料

- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)
- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(科目または授業別)
- ・「学生による授業評価アンケート」自由記述欄(切り抜き)
- ・「授業改善に向けて」様式

※「授業改善に向けて」は資料封入の透明袋へ入れてご提出ください

授業についてのアンケート調査 鹿児島女子短期大学

このアンケートは、授業をよりよくするためのものです。各質問項目に本意を記入してください。氏名は印刷用紙には記入されません。変更された回答が記録されることもありません。

(a)番号・氏名等を記入してください

(J ・ S ・ C) 年 組 番 氏名:

(b)実施日と科目名を記入してください

実施日	月	日
科目名		

(c)学年をマークしてください

① 1年生
② 2年生
③ 上記以外

(d)科目番号を記入し、マークしてください

科目番号	① ② ③
	④ ⑤ ⑥
	⑦ ⑧ ⑨
	⑩ ⑪ ⑫
	⑬ ⑭ ⑮
	⑯ ⑰ ⑱
	⑲ ⑳ ㉑
	㉒ ㉓ ㉔
	㉕ ㉖ ㉗
	㉘ ㉙ ㉚
	㉛ ㉜ ㉝
	㉞ ㉟ ㊱
	㊲ ㊳ ㊴
	㊵ ㊶ ㊷
	㊸ ㊹ ㊺
	㊻ ㊼ ㊽
	㊾ ㊿

(e)出席番号をマークしてください

(1番～9番までは、十の位を0でマーク)

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱
⑲	⑳	㉑
㉒	㉓	㉔
㉕	㉖	㉗
㉘	㉙	㉚
㉛	㉜	㉝
㉞	㉟	㊱
㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺
㊻	㊼	㊽
㊾	㊿	

(f)組をマークしてください

① 11a
② 21a
③ 31a
④ 41a
⑤ 51a
⑥ 61a
⑦ その他

(g)学科をマークしてください

① 児童教育学科
② 生活科学科
③ 教養学科
④ 上記以外

A 次の質問について①～⑤までの5段階で最も近いと思われる数字を選び、マークしてください

(1) あなたは授業を毎回欠席(欠けも含む)しましたか。	欠席した回数	1回	2回	3回	4回以上
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		①	②	③	④
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		①	②	③	④
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		①	②	③	④
(5) あなたの受講態度を1～5の段階で評価してください。		①	②	③	④
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。		①	②	③	④
(7) 授業はよく準備されていましたか。		①	②	③	④
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		①	②	③	④
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。		①	②	③	④
(10) 発見や感動などがあり、興味を持って授業でしたか。		①	②	③	④
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		①	②	③	④
(12) 教員の声は十分に大きく、明確な話し方でしたか。		①	②	③	④

用紙の向きを揃えて回収
折り曲げ厳禁

1. ①～⑯、⑲～㉑はマークシートです。マークシートの記入は、良い状態から200の中程まで正確に印刷されています。2. 印刷を汚したり、折り曲げたりしないでください。3. 不正な書き込みは、よみとりに誤り、消しカスを印刷の上に残さないでください。

(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用紙の向きは適切でしたか。		①	②	③	④	⑤
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		①	②	③	④	⑤
(15) 教員の熱意を感じましたか。		①	②	③	④	⑤
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		①	②	③	④	⑤
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		①	②	③	④	⑤
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		①	②	③	④	⑤
(19) この授業を総合的に1～5の段階で評価してください。		①	②	③	④	⑤
(20) (教員が返答する質問に答え) てください。出されない場合もあります。		①	②	③	④	⑤

B 以下の質問について自由に答えてください

(21) この授業でよかったと思う点を書いてください

注意: 回答に記入したら、必ず下段にマークシートで記入してください。記入した箇所は消しませんが、消しカスは残ります。

(22) この授業でよくなかったと思う点、改善すべきだと思う点を書いてください

注意: 回答に記入したら、必ず下段にマークシートで記入してください。記入した箇所は消しませんが、消しカスは残ります。

(23) この授業について、教室、施設、設備も含め、不満・要望・その他があれば書いてください

注意: 回答に記入したら、必ず下段にマークシートで記入してください。記入した箇所は消しませんが、消しカスは残ります。

「授業改善に向けて」

作成年月日	年 月 日
授業科目名(受講者数)	(名)
担当教員名(所属)	()
①当該授業開始前の教育上の目標・配慮	
②授業に関する中間アンケートの分析	③中間アンケートを受けての改善内容
④学期末授業評価の分析	⑤FD研修(3/25)を踏まえ、次年度へ向けての改善目標・改善内容

※複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください(例:「95+110名」)。

※②と③の分析は、学生による授業評価を総合的に振り返ってください。学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただいても結構です。

平成27年9月

非常勤講師 各位

FD委員長 池田

初秋の風が気持ちよく感じられる季節となつてまいりました。と同時に、後期も開講し、先生方にはご多忙の毎日が始まったことと拝察します。さて、前期内で実施した授業アンケートの個人別結果の仕分けが終わりましたので返戻いたします。これまでと同様、授業改善に向けた報告書用紙も同封してあります。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、資料結果に基づき、同封いたしました「授業改善に向けて」にご記入のうえ、提出いただきますようお願い申し上げます。

提出期限は10月30日(必着)とさせていただきます。同封の返信用封筒にてご返送ください。

同封資料

- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)
- ・「学生による授業評価アンケート」集計結果(科目または授業別)
- ・「学生による授業評価アンケート」自由記述欄(切り抜き)
- ・「授業改善に向けて」様式
- ・返信用封筒

以上

※「授業改善に向けて」は同封の返信用封筒へ入れてご提出ください

◆集計結果（平成27年度前期：全体）

平成27年度 前期実施 「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)										
質問項目	各選択肢の回答率 (%)					度数	平均値	標準偏差		
	0	1	2	3	4				5	
(1) あなたは授業を何回欠席(公欠も含む)しましたか。	63.0	22.3	9.9	3.5	1.2	5762	0.6	0.9		
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。	6.1	29.5	43.1	15.4	5.9	5765	2.9	1.0		
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。	6.2	24.8	43.3	20.0	5.7	5759	2.9	1.0		
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。	1.5	8.8	36.6	38.1	15.0	5764	3.6	0.9		
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	0.5	2.9	33.2	47.3	16.1	5766	3.8	0.8		
(6) 授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	0.6	3.8	35.3	38.0	22.3	5760	3.8	0.9		
(7) 授業はよく準備されていましたか。	0.4	2.9	20.2	37.1	39.4	5764	4.1	0.9		
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	0.7	4.4	24.6	35.9	34.4	5767	4.0	0.9		
(9) 教員の説明は分かりやすかったですか。	1.6	6.0	23.0	34.6	34.7	5765	3.9	1.0		
(10) 発見や感動などがあり、興味を持てる授業でしたか。	1.3	6.4	26.4	34.9	31.1	5765	3.9	1.0		
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	1.5	7.5	28.8	32.7	29.5	5766	3.8	1.0		
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	1.0	4.3	19.2	32.3	43.2	5767	4.1	0.9		
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	1.0	5.1	28.0	34.8	31.0	5754	3.9	0.9		
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	1.0	3.9	21.3	35.7	38.2	5767	4.1	0.9		
(15) 教員の熱意を感じましたか。	0.6	2.3	21.3	34.5	41.4	5764	4.1	0.9		
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。	0.6	2.0	18.7	32.3	46.5	5761	4.2	0.9		
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	0.4	3.2	23.3	36.2	37.0	5759	4.1	0.9		
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	0.4	2.5	21.2	36.0	39.9	5758	4.1	0.9		
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	0.5	2.6	20.1	43.5	33.4	5761	4.1	0.8		

※ 下線は各質問項目において最も回答数が多かった選択肢です。
 ※ 「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。
 ※ 「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

◆集計結果（平成27年度後期：全体）

平成27年度 後期実施 「学生による授業評価アンケート」集計結果(実施全科目分)										
質問項目	各選択肢の回答率 (%)					度数	平均値	標準偏差		
	0	1	2	3	4				5	
(1) あなたは授業を何回欠席(公欠も含む)しましたか。	58.7	23.8	10.3	5.2	1.9	4373	0.7	1.0		
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。	7.8	34.2	41.7	12.1	4.3	4373	2.7	0.9		
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。	6.9	24.9	44.0	18.7	5.4	4367	2.9	1.0		
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。	1.5	7.7	33.7	40.5	16.6	4372	3.6	0.9		
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。	0.5	3.4	33.6	45.4	17.2	4374	3.8	0.8		
(6) 授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	0.6	3.4	33.5	37.1	25.4	4372	3.8	0.9		
(7) 授業はよく準備されていましたか。	0.5	1.9	16.9	35.4	45.4	4373	4.2	0.8		
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	0.7	2.8	19.3	35.7	41.5	4374	4.1	0.9		
(9) 教員の説明は分かりやすかったですか。	1.6	4.2	18.7	36.2	39.4	4373	4.1	0.9		
(10) 発見や感動などがあり、興味を持てる授業でしたか。	1.5	4.2	22.9	36.4	35.0	4373	4.0	0.9		
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	1.7	5.5	26.4	34.8	31.5	4372	3.9	1.0		
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	0.6	2.3	15.9	32.5	48.7	4373	4.3	0.8		
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。	1.0	3.4	24.0	36.2	35.4	4371	4.0	0.9		
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	0.6	2.2	18.1	35.4	43.7	4373	4.2	0.9		
(15) 教員の熱意を感じましたか。	0.5	1.6	17.6	35.7	44.5	4368	4.2	0.8		
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。	0.3	1.4	15.6	33.0	49.7	4370	4.3	0.8		
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	0.7	2.0	19.3	35.9	42.1	4373	4.2	0.9		
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	0.2	1.5	16.3	36.9	45.1	4366	4.3	0.8		
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。	0.5	1.9	16.0	44.3	37.4	4357	4.2	0.8		

※ 下線は各質問項目において最も回答数が多かった選択肢です。
 ※ 「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。
 ※ 「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

2 授業公開

<授業公開週間実施内容>

(単位：名)

年度	実施期間	参 観 科目数	専 任 教員数	授業参観記録 提出教員数	備考 (教員内訳)
平成 27 年度	平成 27 年 11 月 9 日 (月) ~20 日 (金)	19	48	24	児童教育：7/21 名 生活：13/18 名 教養：4/9 名 非常勤：0 名

◆授業公開週間について①（平成 27 年度）

平成 27 年 11 月 2 日

教員各位

FD 委員長 池 田

お知らせとお願い

歳末というにはまだ早いものの、何かと気忙しい時節となってまいりました。

さて、下記の予定で授業公開週間が始まります。授業力向上のため、自らの授業にたいする他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。つきましては、教員メールボックス脇に用意した「後期時間割」に、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ (×) 印をつけていただきますようお願いいたします（一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。）。

なお授業参観の際は、原則として、事前に授業担当者へ参観希望である旨をお伝えください（実習にその他による休講等があるため）。また参観は、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。

参観後は、添付の参観感想用紙を 11 月末日までに指定の提出ボックスへお入れください。

記

平成 27 年度後期授業公開週間 11 月 9 日 (月) ~ 11 月 20 日 (金)

◆授業公開週間について②（平成 27 年度：非常勤講師）

平成 27 年 11 月 2 日

非常勤講師 各位

FD 委員長 池 田

お知らせとお願い

歳末というにはまだ早いものの、何かと気忙しい時節となってまいりました。

さて、下記の予定で授業公開週間が始まります。授業力向上のため、自らの授業にたいする他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。つきましては、教務課窓口に「後期時間割」を用意しました。出勤簿押印時に確認し、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ (×) 印をつけていただきますようお願いいたします（一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。）。

なお授業参観の際は、事前の講義実施予定の確認をお勧めします。（実習にその他による休講等があるため）。また参観は、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。

参観後は、添付の参観感想用紙を 11 月末日までに教務課へお渡しく下さい。

記

平成 27 年度後期授業公開週間 11 月 9 日 (月) ~ 11 月 20 日 (金)

概 要：①上記の期間中に授業の参観ができます。90分間に複数の授業を参観していただいても構いません。
②期間中は、「授業公開週間時間割」（時間割は教務課でご確認下さい。）に条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入室できます。

参 観 後：①参観者は、「授業参観記録」に感想等を記入し、教務課へ提出して下さい。
②記録用紙は1授業につき1枚の記入となります。
③教務課で記録用紙を回収した後、科目毎にまとめ、授業担当者へお渡します。（ただし、コピーを1部、FD委員会で保管します。）

以上

◆授業公開について（時間割確認のお知らせ）（平成27年度）

授業公開週間時間割

授業公開週間(11/9～11/20)の時間割を準備いたしました。

※ 11/2までに、わかっている休講・教室変更については記載しています。

各学科の時間割について、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ(X)印をつけていただきますようお願いいたします(一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。)

*** 非常勤講師の皆様も、授業公開にご協力いただいております。
できるだけ、参観にもご協力いただきますようお願いいたします。***

11月2日 FD委員会

◆授業公開について（公開週間お知らせ：学生用）（平成27年度）

2015.11.6

授業公開週間のお知らせ

FD委員会

本学における授業改善の一環として、「授業公開週間」を実施します。
これは、教員間で授業を参観し合うことにより、各教員が自分の授業を見直して質の向上を図ることを目的としています。期間中は、学生の皆さんが受けている授業を、本学教職員または非常勤講師の先生方が参観されることがありますので、その際は理解と協力をお願いします。

実施期間：11月9日(月)～20日(金)

以上

◆授業公開時間割例示（平成27年度）

平成27年度【授業公開週間 後期時間割】【児童教育学科】

曜	1年					2年					3年					4年				
	小・幼 コース																			
11月9日	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	1 教育原理 山元 405 (A)松元 410 2 教育原理 山元 405 3 教育原理 山元 405 4 教育原理 山元 405 5 教育原理 山元 405 6 英語演習ⅡA 太郎 405 英語演習ⅡB 太郎 405 7 英語演習ⅡC 太郎 405 8 英語演習ⅡD 太郎 405 9 英語演習ⅡE 太郎 405 10 英語演習ⅡF 太郎 405	

※11月30日(月)までに提出ボックスにご提出ください。

◆授業公開参観記録様式（平成27年度）

平成27年度 授業参観記録

科目名	担当者	先生
参観日時	11月 日()	1-2 3-4 5-6 7-8 9-10 曜日
記入者	児童教育学科	生活科学科
	非常勤講師	事務職員
その他()		
氏名		
授業についての感想		

※11月30日(月)までに提出ボックスにご提出ください。

◆授業公開実施報告（平成27年度）

平成27年度 授業公開週間について

FD委員会

授業公開週間の報告

○実施期間：平成27年11月9日（月）～11月20日（金）

報告書提出者数

学科	人数（昨年度数）
児童教育学科	7(5)
生活科学科	13(16)
教養学科	4(6)
合計	24(27)

○参加科目一覧

倫理学	図画工作	日本語表現の基礎	保育臨床
保育内容（人間関係）	栄養指導実習Ⅱ	保育者論	人間関係とコミュニケーション
看護実習	応用栄養学	経営栄養	教育方法の研究
WE LOVE 鹿児島	理科基礎	障害児の教育・保育	中国語演習Ⅱ
キャリアデザインⅠ	住まいと環境	情報処理Ⅰ	

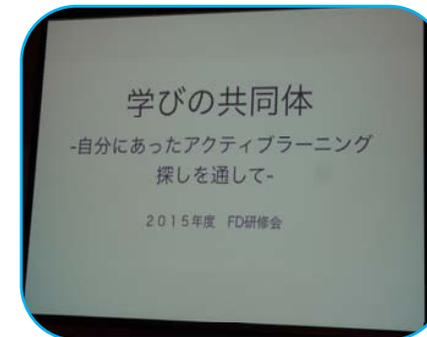
提出者報告者数は、総数学科別数とも昨年度とほぼ同数であった。報告書に記載された内容は、・授業内容への興味関心、・学生をいかに授業に引き込み、またいかに活発に意見を引き出すか、・教材の使用法、・授業の時間配分等、様々な観点から考察されたものであった。また複数教員で一科目を参観することで、多くの意見を交換している事例も見受けられ、今後授業の質向上につながることを期待する。

3 FD研修会

<FD研修会内容>

平成 27 年 度	<p>・平成27年度第1回FD研修会 ワークショップ：テーマ 「学びの共同体－自分にあったアクティブラーニング探しを通して－」 平成27年10月19日（月）17:00～18:30（南館304号室） （講師：児童教育学科 講師 内田豊海） 本学参加者：45名</p>
	<p>・ICT（出席管理システム「かいつくん」導入）研修会（本館404号室） 平成27年11月12日（木）15:30～ 平成27年11月16日（月）・11月17日（火）16:30～ （講師：株式会社アルファメディア） 本学参加者：45名</p>
	<p>・平成27年度第2回FD研修会「第21回FDフォーラム報告」 （京都：京都外国語大学） テーマ：「大学教育を再考する～イマドキから見えるカタチ」 平成28年3月25日（金）10:30～11:30（南館304号室） （講師：教養学科 教授 大重康雄 児童教育学科 講師 内田豊海） 本学参加者：47名</p>

◆平成27年10月19日（月）「2015年度第1回FD研修会」





◆2015 年度第 1 回 FD 研修会 掲示（内容）

FD 研修会のお知らせ

平成 27 年度の FD 研修会を、下記日程で行います。

授業アンケートに関わる内容なので、教員の皆様はぜひご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日程：10 月 19 日（月）
 時間：17：00～
 場所：南館 304 号室
 講師：内田先生



FD 委員会（10/5）

◆2015 年度第 1 回 FD 研修会 次第

鹿児島女子短期大学
MEMO
鹿児島女子短期大学

平成 27 年度 FD 研修会

日 時：平成 27 年 10 月 19 日（月）17:00～
 場 所：南館 304 教室

次 第
 進行 池田哲之 教授

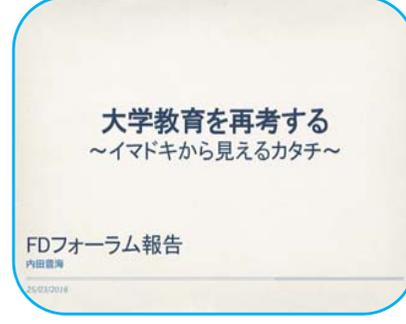
- 1 開会
- 2 学長あいさつ
- 3 ワークショップ 内田豊隆 講師
 テーマ：「学びの共同体
 —自分にあったアクティブラーニング探しを通して—」
- 4 その他（質疑応答、アンケートのお願い等）
- 5 閉会

◆2015 年度第 1 回 FD 研修会 アンケート用紙

平成 27 年度 FD 研修会 アンケート

①FD 研修ワークショップについて、ご感想・ご意見等ありましたらお書き下さい。

◆平成 28 年 3 月 25 日（金）「2015 年度第 2 回 FD 研修会」



◆2015 年度第 2 回 FD 研修会 揭示（内容）

教員各位

平成 28 年 3 月 11 日

FD 委員長 池 田

お 知 ら せ

下記の要領で、平成 27 年度第 2 回 FD 研修会を開催します。先生方の奮ってのご参加をお願いします。

記

- | | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 日時 | 3月25日（金）10：30～ ※1時間程度 |
| 2. 場所 | 南館304 |
| 3. 内容 | 1) 開会の辞（FD 委員長）
2) 学長挨拶
3) FD フォーラム参加報告
①大重教授
②内田講師
4) 閉会の辞（総務課長）
5) 事務連絡 |

◆2015 年度第 2 回 FD 研修会次第

教員各位

平成 28 年 3 月 25 日

FD 委員長 池 田

H27 年度第 2 回 FD 研修会開催要領

記

1. 日時 3月25日(金) 10:30～ ※1時間程度
2. 場所 南館304
3. 内容
 - 1) 開会の辞 (FD 委員長)
 - 2) 学長挨拶
 - 3) 第 21 回 FD フォーラム参加報告 (主催 大学コンソーシアム京都)
 - ①大重教授
 - ②内田講師質疑応答
 - 4) 閉会の辞 (総務課長)
 - 5) 事務連絡

◆2015 年度第 2 回 FD 研修会アンケート用紙

平成 27 年度第 2 回 FD 研修会 アンケート

① 本日の研修会について、ご感想・ご意見等ありましたらお書きください。

◆2015 年度第 2 回 FD 研修会報告

平成 27 年度 第二回 FD 研修会

アンケート集計内容

- ・高大接続や学生募集の「教育成果を伝える」「何がどのように伸びたのか」「教育方法を体験する」という点が参考になった。オープンキャンパスのブース対応等活かせるところで使っていきたい。
- ・セグメントの可視化に興味がある。
- ・今後の授業に生かしていきたい。
- ・学ぶ意欲・能力に欠ける学生、大学と高校間の教育的接続の不具合など、本学にとっても解決を迫られる内容だった。
- ・この短大にいと当たり前なことが多いと感じる内容であり、鹿女短が時代を先取りして先端にいることを実感した。
- ・「マス教育の限界」を感じた
- ・研修会の報告自体はもっともなものであるが、「それで私は何をすればいいのだろうか」という疑問はどうしても残る。それを国がこうするからということではなく、教員が主体的に考えていくことこそが、主体的な学生を育てることにつながるのだと感じる。
- ・現代の大学教育の在り方や学ぶきっかけを掴めない学生への向き合い方など参考になった。
- ・社会のニーズに応じ、指導内容や学生評価が変化し、柔軟な指導力が必要とされていることがわかった。
- ・高大接続に関して、解決の糸口は見えず、全国的な課題であることがわかった。
- ・学ぶきっかけを掴めない学生に対し、定時制高校を見学する試みは面白いアイデアだと思った。限られた時間で余裕のない本学の学生にとって、動機付けをしっかりとするためのきっかけづくりをしていきたい。
- ・「教育内容を伝えるよりも教育成果を伝える事例が成功している」との指摘は参考になった。一方で、「成果」や「役に立つ」など高校生の価値観や基準、経験値で判断できるものにし学習意欲を持っていない学生を多く見ると残念に感じることもある。

4 外部FD研究会参加

<参加内容>

平成27年度	・第21回FDフォーラム（主催：財団法人大学コンソーシアム京都） 平成28年3月5日（土）～3月6日（日） 於：京都外国語大学（京都） テーマ：「大学教育を再考する～何のために、何をどこまでやるべきか」 参加者：教養学科 教授 大重 康雄 児童教育学科 講師 内田 豊海
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◇参加報告（感想）

○（教授 大重 康雄）

○第21回FDフォーラムは「大学教育を再考する～イマドキから見えるカタチ」というテーマで開催された。これまで文部科学省が進めてきた、高等教育機関の質的転換 大学教育改革が進む過程で見えてきた教育現場での状況を再考する試みとなっている。したがって恒例となっていた文部科学省からの基調講演はなく、大学等がこれまでの改革施策を謙虚に振り返るフォーラムとなっていた。改革の過程で大学には質保証手段として様々なプレッシャーが掛けられており、教育現場で学生の学びと成長はどのように変化しているのかを問う試みが2日目の分科会で行われた。それぞれの教育課題毎に13の分科会で討議・意見交換が行われ各部屋ともほぼ満杯の状況だった。

○初日のシンポジウムではNPO法人NEWVERYの山本理事長の大学改革支援の発表が非常に興味深かった。募集活動は本来の教育改革以前の問題であるが、不安定な経営環境では教育の質を担保できないという考えから民間団体の支援を受け募集改革に乗り出す大学が増加している現実とFDフォーラムの場でのような議論がなされたことややきやきを感じた。学内のFD等改革を担うべき人材の育成・成長を待たずに、状況の変化に追いつかず経費を払って外部コンサルに改革を託すことにはささかの矛盾も感じた。

○2日目の分科会では教養学科長からの依頼で「第3分科会：学びきっかけをつかめない学生にどう向き合うか？～教養教育の挑戦～」に参加した。このテーマでの分科会は今回が初めてのことだったが、コーディネーターによれば企画段階から講師依頼に苦慮したそうで、謝絶が相次いだとのことであった。「学びきっかけをつかめない学生」は教育改革を進める過程でより存在が明確になり、抜本的な対処方法が未だ模索中という状況がわかった。

上記3氏（実務家出身の教員経験の短い講師2名と災害現場や戦跡を巡るダーク・ツーリズムを研究対象にしている講師）の発表を聞いたうえで全般的な所感としては、「学びのきっかけ」作りのヒントとしては理解できるが、一般の教育現場で見られる学生の学びの問題に必ずしも正面から取り組んだ内容ではなく、今一步という感想を持った。定時制高校訪問や国際報道の活用及びダーク・ツーリズムを学びのきっかけとして活用した事例紹介が中心の分科会になってしまい、テーマの後半にある「向き合い方」そのものについてはいずれも明確な言及はなかった。

学修成果の可視化は主に大学IR（Institutional Research）で進展することになるが、学修成果が得られない「学びきっかけをつかめない学生」の存在も同時に可視化されることになる。課題集中校では特に深刻な状況となろう。大学教育改革の副産物として露呈してくる重要な問題であり、次回以降の議論に期待したい。

○（講師 内田 豊海）

3月5、6日の二日間にわたり、京都外国語大学で開催されたコンソーシアム京都主催のFDフォーラムに、短大代表として参加してきたので、その内容をまとめ報告する。

1日目は午後から全体フォーラムとして「大学教育を再考する：イマドキから見えるカタチ」というテーマのもと、4人のシンポジストから、コンサルタント、大学研究者、大学管理職者、大学事務職員といった多様な視点からの報告があった。まずNPO法人NEWVERY理事長の山田氏より、今後の大学界のメガトレンドを見越し、いかに教育改革をしていくか、その必要性和報告性に関する報告がなされた。ついで京都府立大学の松岡准教授より、社会と大学をいかに結びつけるかという観点について提案がなされた。新たなインターンのあり方や起業家との橋渡しを通して、学びと働きをつなげる取り組みの必要性が述べられた。そのあと、追手門学院大学の池田教授より学校経営の立場からの報告、そして立命館大学の島氏より大学事務局の立場からの方向がなされた。

2日目は「高大接続改革の動向から紐解く学生理解～「接続」の意味するもの～」と銘打たれた分科会に参加した。ここでは、高大接続を、リクリート会社、高校教諭、大学教諭の3つの視点から論じ、高大のみならず、大学と社会の接続まで見据えた内容で議論がなされた。高校教育のあり方、大学教育のあり方、センター試験に関して、社会に出るために必要な力、といった、多岐にわたる内容が織り交ぜられ、一言に高大接続と言っても、それをスムーズに連携するためには非常に多くの課題をクリアしないといけないことが改めて確認され、またそのために参加者がそれぞれの大学でし得ることについて考察した。大学でできることは、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを明確かつ適切に定め、教育内容を改革・充実させ、その上で自校に必要な能力をきちんと問えるような、アドミッションポリシーに則った試験を作り上げることであろう。高校教育のゴールは、どのような理念があろうとも大学入試に結びつく現実があり、大学入試で問われる力を、大学側が自らの教育理念と結びつけて発信することで高大接続を円滑にしていくことが問われているようである。

* あとがき *

各大学のFD活動が恒常化してすでに久しいものがある。いまや大学教員も、わかりやすく、かつ効果的な授業の構築を目指し、日々、研鑽を重ねていかなければならない時代となったのである。ただ一方、FDのためのFDといった、教員に過度な負担を強いるFD活動の実態も散見され、本学ではそうした弊害に陥ることのないよう、これまで主体的なFD活動の推進に取り組んできたところである。

2015年度は、2回の全学的FD研修の機会を設けた。1回目は、大学におけるアクティブラーニングのあり方及び実施上の留意点について、ワークショップ形式による研修を実施した（内田講師担当）10月の研修会である。2回目は、3月に開催した「FDフォーラム（コンソーシアム京都主催）」出席報告会である。ここでは、例年のことながら、全国各大学で取り組まれているFDの先駆的事例に関する知見を深めることができた。

FD研修会以外にも、学生による「授業評価アンケート」、教員によるその「改善報告」、さらに授業公開週間の設定などの取組みを行い、全学一丸となった教育力の向上に繋げる方策を講じた。

FD委員長 池田 哲之

「鹿児島女子短期大学 FD 活動報告書」
(2015 年度版)

鹿児島女子短期大学 FD 委員会
(2016 年 5 月発行)